

番号	キャッチフレーズ 理由
1	<p><b>ホップ ステップ こうとうく～</b></p> <p>歴史と伝統を残しながら、次世代にはばたく躍進の区を象徴しているから。</p>
2	<p><b>水面(みなも)に映る緑とあふれる人情、江東わが町</b></p> <p>江東区の特性は申すまでもなく、縦横に走る河川や運河と隅田川、荒川、東京湾に囲まれた水辺のまちである。これらの特徴を活用し、耐震護岸整備に合わせ、水辺の散歩道や潮風の散歩道を整備し、線的な緑の確保。また、不要河川の再生として親水公園の整備から面的にも緑を確保しており「水と緑のネットワーク構想」が充実しつつある、都内では他に類を見ない独特の町並みを形成している。豊洲、臨海地区等の開発で人口が急増している。新旧住民のコミュニケーションの機会を得るための有効手段として、その他の風土を生かしたコミュニケーションの場が親しみやすいと考えられる。歴史的な江戸の三大祭である深川八幡祭りを始め、亀戸天神例大祭や各種のまつり、花火大会等地域のコミュニケーションの場はたくさんある。これらを通じて人情あふれる江東区をめざせたらと思う。</p>
3	<p><b>－豊かな伝統文化と新しい文化の共存－</b>  <b>「区民と共に、笑顔があふれる街づくり“こうとう”」</b></p> <p>これからの江東区が目指していく将来像をイメージしたとき、深川、亀戸地区が代表される豊かな伝統文化と豊洲、東雲、有明地区が代表される新しい文化とのコラボレーション(共存)が大切になってくる。このイメージは、今回の基本構想からははずせないものと考えたので、サブキャッチフレーズにしました。第一に、心が豊かになる街“こうとう”江東区に生まれてよかった、住んでよかったと心の豊かさを実感できる地域づくりを目指す。第二に、活き々、活力ある街“こうとう”区内で、昔ながらの伝統をはぐくみながら守っている力強い産業文化を背景に、新たな創造性あふれる文化をミックスさせた活力ある街づくりを目指す。第三に、生涯にわたり、安心して暮らせる街“こうとう”区内のどこにいても、いつでも、だれでもが、生涯にわたって、安心して暮らせる街を目指す。(安心医療、災害対策、防犯対策など、これから、だれもが想像したことがない時代を見据えて基本計画を考える。)以上の3目標を達成させるためには、区民と共に基本構想を考えていくことが大切である。そして、その目標を達成したあとは、区民の笑顔が絶えない街、江東区ができあがると考える。</p>
4	<p><b>粋な伝統 受け継ぐ輪 未来につながる サイエンス都市・江東</b></p> <p>人々が穏やかに生活できるのは、江東区の伝統文化があるから、又、臨海部はじめ、目覚ましい発展は科学の力であると思い、この2点に注目した。下町の人情あふれる文化と地域の行事や祭りは、江東区の誇る伝統であり、「粋」の言葉があてはまる。歴史的、文化的な継承は人々の連携が必要であり、つながりの「輪」である。区内に立つ道標は通る人に曲で語りかけてくれる。心豊かな生活に科学の力を感じる。ゴミ問題や災害に強いまちづくりも科学が不可欠である。又、高齢者、障害のある方へのバリアフリー化やコミュニケーションづくりも人間科学である。10年後は、増加する住民のニーズに対応して、より安全で、より快適に生活できる都市としてこのキャッチフレーズを提案します。</p>
5	<p><b>かなでる文化 はばたく未来 水際立つ都市・江東</b></p> <p>近年、区内に小鳥が多く生息している。まさに、きれいな水と緑が豊富な証である。CO2削減を目標に人にやさしい街づくりと伝統文化をつなぎつつ、さらなる発展を目指して、このキャッチフレーズを提案いたします。なお、江東区が豊かな水を特色としていることと、みずみずしくあざやかで、ほかとくつきり異なって美しく優れているという意味の「水際立つ」を重ねた。</p>

番号	キャッチフレーズ 理由
6	<p><b>伝統の息吹が未来に生きる 水彩都市・江東</b></p> <p>これまでの将来像は、平成2年 江東・伝統と未来を結ぶ下町 平成11年 伝統と未来が息づく水彩都市・江東 ...である。このように、「伝統」と「未来」が長い間本区のキーワードであった。基本構想というつながりを考えると、この「伝統」と「未来」を生かすことが必要と思われる。前基本構想が「結ぶ」という伝統と未来との連続性、現基本構想が「息づく」という共時性を表現しており、新たな基本構想では第3段階として新たな局面を表現することが求められてくる。今後ダイナミックに変化する本区においては、過去の伝統を十分に継承しつつ、新旧住民が融合していることが重要である。昔からの区民も新しく転入してきた区民も、共に安らぎとうるおいが感じられる江東区であることが求められている。このことから、大きく発展する未来においても、古き良き伝統が継承、融合、発展している姿が望ましい将来像と考えられる。また、本区の代名詞とも言える「水彩都市」はキャッチフレーズには必要である。</p>
7	<p><b>夢と安らぎを次世代に伝えるまち 水彩都市・江東</b></p> <p>本区は、南部のまちづくりをはじめ、今後大きく発展、進化することが予想されます、平成32年には、人口は58万人を超え、豊洲地区だけでも現在の渋谷区と同規模の20万人にも上るとされています。これほどダイナミックに変貌する都市はなく、江東区ほど大きく発展する区は他にありません。しかしどんなに大きく発展しようとも、大事なことは区民はもちろんのこと、本区を訪れる観光客、在勤者など、本区に関わりを持つすべての人々が、本区に夢と安らぎを感じられることです。これから更に発展し続ける姿に夢を見出し、また日々の生活においては安らぎを感じられること、それがまちの重要な機能だと思えます。そして、その夢と安らぎが単に一過性のものではなく、常に次世代へと引き継いでいくことが求められています。江東未来会議の提言書においても、未来ということが強く意識されています。様々な分野で「江東区が目指すべき将来像」が提示されていますが、共通して言えることは、今後江東区がさらに良くなり、多くの人が夢を持てるまちになっていることだと思えます。常に、夢と安らぎを次世代に伝え続けるまちこそ、本区の将来像としてふさわしいと思えます。</p>
8	<p><b>Go to Koto! (ゴートゥーコートウ)もしくは Go Koto!</b></p> <p>直訳すれば、「江東区へ行く。」(英文的には?か)「行け!江東区。...」世界中から集まる。江東区を注目し、目指す。人が集まり活気ある江東区。在住、在勤者にとっては未来へ進むGOの意味も含まれている。横文字を取り入れることで躍動感、国際化にも対応未来へ向けて、羽ばたくイメージ。</p>
9	<p><b>いのち育む青と緑のまち・江東</b></p> <p>現在の江東区の重要課題である子供を育てるための環境づくりをアピールする事を主題として作成した。“青と緑のまち”というフレーズは江東区は海や川等水との係わり合いが深いことや江東区が保有する多くの公園から生命の源泉である海と自然をイメージして名づけた。また“いのち”や“まち”といった単語に平仮名を用いたのは文に温かみを持たせる事を意図した。</p>
10	<p><b>私たちのさわやかエコシティ・Koto</b></p> <p>「わたしたちのさわやか」...こどもからお年寄りまでいきいきとした          「さわやか」...青い空、豊かな緑、きれいな水、美しい街          「エコシティ」...洞爺湖サミットでいわれた持続型エコロジー社会</p>

番号	キャッチフレーズ 理由
1.1	<p><b>手からてへ光と水 歴史と文化の江東区</b></p> <p>光と水は臨海部の可能性と未来を意味する。歴史と文化については従来からの歴史文化を意味する。成熟世代、これからの世代とともに手を携え、可能性やら歴史を次世代へ伝えようという想い。</p>
1.2	<p><b>想いをともに創る ふれあいのまち ふるさと江東</b></p> <p>”ゴミのまち”、これは私が30数年前江東区に入区し研修のときに他区の職員から言われたことです。不快な気持ちと同時に変革が期待できる区であるとの思いを新たにすることが思い出されます。当時は降雨により溢水するところが多く見られ、水防は本区の最重要課題でした。その後の取組により、現在は水害に対する安全性が大きく向上し浸水から親水と環境も移り変わってきました。又、臨海地域の開発とともに居住人口も45万人を超え今も増え続けています。そして、高齢者対策、治安対策、防災対策、子育て支援、教育など区政に対する意見等多岐にわたり、こどもから大人まで江東区で活動するたくさんの人々から多くの要望が日々寄せられています。こうした区民の様々な人たちのいるんな想いを実現していくために、区民とともに取り組んでいく姿勢が強求められています。そうしたことから「区民主体のまちづくり」を謳い、歴史ある下町と臨海地区のまちの人々のふれあいが深まり、他の自治体があこがれ、将来に亘り区民が誇れるまち、ふるさとと呼ばれる魅力ある都市をめざし、発展する江東区の将来像としてこのキャッチフレーズを提案します。</p>
1.3	<p><b>下町情緒と爽風薫る環境先進都市・江東</b></p> <p>東に荒川、西に隅田川、南に東京湾、そして内陸部に多くの河川を有する本区は全面積の20%が水面を占める水辺環境に恵まれたまちとなっています。又、かつて江戸文化を支えたにぎわいのある下町、そして開発著しい臨海地域が混在するまちでもあります。区政に対する意見等多岐に亘り、高齢者対策や治安などこどもからお年寄りまで江東区で活動する人々から多くの要望が日々寄せられています。こうした区民を取り巻く様々な生活環境の改善を他都市に先駆け積極的に取り組み、合わせて温暖化防止のチームマイナス6%を推進することが喫急の課題であります。区民生活が向上し、川面を吹き抜ける清風、運河の潮風、そして東京湾からの海風に四季を感じ、区で暮らす人々に潤いと安らぎをもたらす良質な生活環境のまち、魅力ある都市をめざし、発展する江東区の将来像としてこのキャッチフレーズを提案します。</p>
1.4	<p><b>伝統を守り続け、新たな未来へはばたく 笑顔満載都市 江東</b></p> <p>まず、あえて今までと同じ「伝統と未来」という言葉を使ったのは、これから先、区が発展するためには、いずれも重要なキーワードだと思ったからです。子育て、福祉も重要なので、「笑顔満載」という言葉でそれを表現しました。</p>
1.5	<p><b>ひととまち 結ぶ 水辺と緑の共生都市 江東</b></p> <p>臨海部を中心に限りない発展を続ける江東区であるが、街や便利さだけが発展するのではなく、下町人情が区北部でかつて生き活きとあったように、これからの江東区に人と人が結び、結んだ人々がまちと結んで、だれもが(共生)憩える癒しの場所(水辺と緑の都市)である理想像の実現に願いをこめた。</p>

番号	キャッチフレーズ 理由
1.6	<p><b>心と水が通う都市 江東</b></p> <p>1 江東区の特徴である河川・運河を生かしたまちづくりを行う。水運については、護岸にコンクリートの堤防がそびえたっているため、区民にとって「近くて遠い」ものであったという意見がある。現在は小名木川の遊歩道が整備されつつあるが、今後も、川と人との距離を縮め、水辺を生かしたまちづくりを行う。</p> <p>2 犯罪の凶悪化やいじめ問題など、心と心のつながりが希薄になっていることが要因ともいえる問題が起こっている。中長期的に心の通う区にしていくことで、地域内の相互扶助や思いやりの精神がうまると期待する。</p>
1.7	<p><b>皆が主役, 江東劇場 / 皆で創る, 江東劇場</b></p> <p>江東区をひとつの劇場に例える。その劇場ではさまざまな演目(施策)が行われている。区民は時と場合によって 監督 観客 演者として劇場の運営に携わる。行政は縁の下の力持ちとして区民を支える。今後は区の独自性を出すことが重要だと考える。区民と行政のパートナーシップが図られれば、江東区に特化した施策を実行でき、個性的で魅力的な区を作り上げられる。また、区の独自性が発揮できれば、他区との差別化が図られ、区民が誇れる区となり、また、区外からも江東区に住みたいという声が上がっていくと期待する。人口の減少が始まっている中で、人口は区を支える力として、人口の増加を歓迎する。&lt; 区民に期待される役割 &gt; 監督: 行政の運営に積極的に関与し、また、監視する役割 観客: 行政サービスを受給する役割。観客の少ない演目(施策)は存続が問われる。観客の反応は施策の有効性を測る重要な判断材料となる。 演者: 行政に代わって区民が区民にサービスを提供する立場。NPOやボランティアとして行政に足りない施策を提供する。</p>
1.8	<p><b>首都東京で人々が集い暮らすまち 水彩都市・江東</b></p> <p>「水彩都市・江東」は、区民の人への定着がかなりあるので残す。ただし、新たなキャッチフレーズなので「水彩都市」以上のフレーズが無ければ、変更する意味が無い。</p> <p>そこで、インパクトがあり、都内だからこそ使えて、他の22区でも使用していない「首都東京」のフレーズをいち早く江東区で使用する。</p> <p>首都の範囲の定義にはいろいろ検討がされているところだが、区が目指す将来像だからこそ、区の意気込みとして使う。</p> <p>「首都東京」には、区民の人へ世界の中の日本の、首都に住んでいるという意識をもってもらい、つまり「江東区」に住んでいる誇りや責任を持ってもらう意味を込める。</p>
1.9	<p><b>豊かで快適な都市生活を創造するまち</b></p> <p>江東区は地理的に都市に位置しており、また、整備が進んだ交通網、多様で豊富な商業施設、集合住宅(大型マンション)が中心となりつつある住環境、区民の憩いの場である都市公園の整備、大型福祉施設や病院の整備と、機能的にも間違いなく都市である。</p> <p>これは江東区の魅力のひとつであり、江東区に転入してくる方にとっては転入の大きな決め手のひとつになっており、都市のもつ豊かさ・快適さが人々を集める求心力になっている。今後も豊洲を代表に大規模な開発が計画されており、ますます都市化が進んでいくと予想される。</p> <p>10年後の江東区を想像すると、上記の都市機能がさらに発達し、交通網では東京メトロ8号線の北上が実現して南北の移動や交流がスムーズに行えるようになり、臨海部を中心に多種多様な魅力的な商業施設、大型複合福祉施設や文教施設がさらに建設され、快適な都市生活を望む富裕層向けのマンションが建設され、マリンスポーツが盛んに行われる公園が整備されるようになる。</p> <p>また、大型複合福祉施設や文教施設が基点となって、区民の交流や地域活動が盛んに行われるようになる。</p> <p>高齢者、障害者、子育て世代等さまざまな人々が、豊かで快適な都市生活を創造する江東区に魅力を感じ、愛着を持って暮らしていける、そのような江東区になればと考える。</p>

番号	キャッチフレーズ 理由
20	<p><b>選りかわらぬ「人、暮らし」、貴方のために創ります生きいき弾む経済都市</b></p> <p>昔ながらの人情あふれる下町の姿を継承しつつ、区民生活の向上のためその基盤となる経済の活性化を目指す施策を実行する決意を表す。</p> <p>少子高齢といわれながらも子どもを持つ世帯は増加傾向にあり、若い世帯考え方や異なる価値観を持つ人々との意見のぶつかり合いが様々な区政への課題を生むことがある。その解決の糸口を得るには、長く住まう人々と新しく住まう人々との考え方の融合や共生は必要不可欠である。</p> <p>その為に相互の文化的交流により伝統的文化の継承と新しい文化の創造をもって江東区の区民意識の高揚につなぎ、これにより住みたい町としての印象を持ち、住み続けたいという気持ちを抱いてもらう。同時に行政の責任として、弛みない努力をする決意を持つ。</p>
21	<p><b>多彩な未来が拓ける街、江東</b></p> <p>東京23区内でも、驚異的な人口伸率を記録している江東区は、今後、東京都のイメージを司る中心的な区となることが想定できる。2016年のオリンピック予定候補地であることや築地市場の豊洲移転等近い将来に大きなイベントが控えており、世界中から注目されることであろう。様々な分野で発展・変化を遂げるであろう江東区をイメージし、「多彩な未来が拓ける街」としてアピールしたい。</p>
22	<p><b>夢を共有できる街、江東</b></p> <p>「夢を共有できる」という言葉に生活している人々、働いている人々が前向きに笑顔を持って夢に向かってがんばっていくことができる街としてのイメージを込めたため。</p>
23	<p><b>ありがとう水と緑の江東区</b></p> <p>水と緑に感謝して毎日を生活し、これからもきれいな水になるように一人ひとりが心がけ、1本でも多くの緑を増やし、ヒートアイランドを少なくできる区として全国に発信していきたいと考えました。</p>
24	<p><b>創ろう副都心のオアシス チーム江東一丸で</b></p> <p>10年後、人・水辺・緑があふれる江東区になっている中で、江東区が東京の中心となるため、皆が集まり、安全・安心に暮らせる楽しい街を目指す必要があると思います。江東区は水辺が多く、沿岸部は今後も大いに発展していき、人が多く集まる活気づいた街になる気がします。江東区はエコの面からも23区の風の玄関口としてヒートアイランドを防ぐなど江東区の役割は大きくなってきます。皆が自然と集まり、やすらぐオアシスのような街になってくれればと思います。</p>
25	<p><b>新旧の調和で歩む江東区</b></p> <p>江東区はかつての住人、また新たな住人が入り混じる街であります。また、江戸時代からの文化伝統行事も深川の祭りを代表するように現代も生き残る活気ある街を形成しています。一方、臨海部を中心に開発されている近代的な科学技術の街も江東区の特長といえます。以上のように新旧がバランスよく調和のとれた街として今後も発展することを記念し、今回のキャッチフレーズを考えました。</p>